

「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座 第1回」

西北地区：令和7年6月17日（火）つがる市生涯学習交流センター 参加者12名

三八地区：令和7年6月12日（木）八戸市総合教育センター 参加者20名

1 内 容

【講 義】「青森県の家庭教育の現状と展望」

県総合社会教育センター 教育活動支援課長

【講 義】「家庭教育支援者の役割・心構え」

講師 特定非営利活動法人

十和田NPO子どもセンター・ハピたの

代表理事 中沢^{なかざわ} 洋子^{ようこ} 氏



【経 歴】

平成17年に特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・「ハピたの」を立ち上げ、平成22年には、コミュニティカフェ「ハピたのカフェ」をオープン。カフェから～地域で子どもを育てる～を起点とし、子どもたちが、社会の中で自分らしく生きぬいていくための事業を展開している。

平成24年には、「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」の内閣府特命担当大臣表彰、平成25年に、青森健康づくり奨励賞、あおもりコミュニティビジネス表彰・青森県知事賞を受賞している。また、平成25年からは、8年間「青森県教育委員」を務めた。

【講義趣旨】

「青森県の家庭教育の現状と展望」

- ・2025年3月、少子化の進行、こどもの貧困、育児不安などの複合的課題に対応するため、こども・子育て家庭を社会全体で支える仕組みづくりを目的とした「青森県こども計画」が策定された。
- ・今後の家庭教育支援のあり方として、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援や支援者の育成、地域でのネットワーク形成が必要となってくる。

「家庭教育支援者の役割・心構え」

- ・家庭環境の複雑化で社会とつながりにくい子どもたちが増加。だからこそ、地域とのつながりが重要である。
- ・子どもとの関わりの中で、とことん子どもの話を聞くこと、子どもの力になること、子ども自身が素の自分でいられることが大切である。
- ・子どもたちがたくさんの地域の大人たちと出会うことで「人とのかかわり」や「あたたかなつながり」を学ぶことができ、自ら考え、自ら判断し、責任をもって行動する、「社会で生きて働くための力」を身につけることができる。

2 受講者の感想

- ・地域で子どもの育ちを支えたいという中沢さんの想いとそのために行動されている姿に感銘を受けました。関わることで子どもたちの力になることを学んだので、あきらめずに子どもたちが沢山の地域の大人たちに出会う機会を作って行きたいと思います。
- ・子どもが夢を描ける社会作りを大人たちが作らなければと話を聞いて感じました。子どもたちが目まぐるしく変わる時代を生き抜く心を鍛えるためにも、たくさんの経験をさせたいと思いました。
- ・とっさに「ダメ」「やめて」と出てしまう自分がいるので一呼吸おいて「どうしてそうなの？」と聞いてみようと思います。